

次期学習指導要領 1枚まとめ｜中学校

国語 中学校

話す・書く・読むを「話や文章の機能」でつなぐ教科へ

10秒でいうと

3領域を「話や文章の機能」でつなぐ。知識は「運用しながら」「教養として」深める2面に

中学校も、話す・聞く、書く、読むを「話や文章の機能」（仮称）でつなぐ方向です。「思考力、判断力、表現力等」は、文章の種類と考え方をひとまとまりで示す案です。評価は、途中の見取り（形成的評価）を重くするとされています。教科書は、中心になる「基幹教材」と、調整できる「関連教材」を分けることが考えられています。

1 文章の種類と考え方をひとまとまりに

今は、学習の過程ごとの細かい事項と、言語活動例が別々に書かれています。次期は、機能を軸に、文章の種類と働かせる考え方をまとめて示す方向です。たとえば「意見を述べる文章」と「主張を明確にする」「根拠を検討する」などを一括りにします。 P134 P138

授業では 意見文を書く単元で、主張・根拠・論理の展開をまとめて考えさせる。そうした単元づくりが、この方向に沿った例です。

2 学習の過程をそろえて、領域をつなぐ

今は、領域ごとに学習の過程の分け方が違います。次期は、話す・書くは「考えの形成／表現・推敲」にそろえる方向です。聞く・読むは「構造と内容の理解・解釈／考えの形成」にそろえます。過程が共通になり、領域をまたいで学んだことを使いやすくなります。 P134

授業では 読む単元で整理した「文章の構造の捉え方」を、次の書く単元の構成メモに生かす。こうした領域の往復が考えられます。

3 評価は途中の見取りを重く

短い単元ごとに最終評価まで行う実態が課題とされています。次期は、途中で学習の改善に生かす評価（形成的評価）を重くする考え方です。使いながら深める知識は、複数の単元を経てから総括する。教養として深める知識は、単元末や学期末にまとめて評価する例が示されています。 P129 P142

授業では 単元の途中は付箋やコメントで声かけを中心にし、思考・判断・表現の成績は、単元の成果として表れた姿でまとめて評価する。そんな形が一例です。

4 「基幹教材」と「関連教材」

教科書の中で、力を育てる中心の「基幹教材」をはっきりさせることが考えられています。あわせて、学校の状況で使い方を変えられる「関連教材」を位置付けます。時数を増減する場合は、必要な内容を保障したうえで関連教材の扱いを調整できるとしています。 P139

授業では 論理の展開が分かりやすい論説を基幹教材にし、構成の違う論説を関連教材として読み比べる。そんな使い方が考えられます。

ほかにも変わること（中学校）

- 「話や文章の機能」（仮称）で3つの領域の学習をつなぐ P131 P134 P139
- 「思考力、判断力、表現力等」の示し方を、文章の種類と考える要素の「ひとまとまり」に P134 P138
- 「知識及び技能」を「運用しながら深める」と「教養として深める」の2つに整理 P131 P135 P138
- 評価のやり方の整理（形成的評価を重く、まとめの評価は後で） P129 P142
- 生成AIの使い方とローマ字入力の扱い P129 P140
- 教科書の教材を「基幹教材」と「関連教材」に分ける P139
- 情報の扱い方・語彙・読書・古典の学習をさらに改善 P136
- 書写：手で書く指導を引き続き重視 P141

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。
ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。